

[成果情報名]アベマキを使ったシイタケ栽培試験－植菌後2年目までの発生量－

[要約]アベマキをシイタケ原木とした場合、植菌後2年目までのシイタケ総発生量は、木片駒ではコナラより少ないが、成形駒ではコナラより多い。

[キーワード]シイタケ、アベマキ、木片駒、成形駒、発生量

[担当]総合農林試験場・林業部・森林資源利用科

[連絡先]電話（代表）0957-26-3330、（直通）0957-26-4293

[区分]林業（特用林産）

[分類]指導

[背景・ねらい]

アベマキは樹皮が厚く発生量がコナラに比べて少ないと言われている。アベマキをシイタケ原木として使っている地域は、全国的にみても少ない。アベマキを使ったシイタケ栽培は一定の技術が確立しておらず、現在はコナラ・木片駒を主体としたシイタケ栽培技術指針しかないため、しいたけ生産者は苦慮しているのが現状である。そこで、アベマキ・成形駒を使ったシイタケ栽培試験を実施し、シイタケの発生傾向を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 植菌後2年目のアベマキからのシイタケ発生量は、木片駒ではコナラの30～60%程度ですべての試験区でコナラの方が多い。一方、成形駒でのシイタケ発生量はコナラの70～150%程度で多くの試験区でアベマキの方が多い（図1）。
2. 植菌当年は、成形駒ではシイタケが発生するが、木片駒ではほとんど発生しない。成形駒では多くの試験区で発生する（図2）。
3. アベマキと成形駒を使った2年目までのシイタケ総発生量は、K115ではコナラの110～150%程度、M290ではコナラの110～130%程度であって、いずれもアベマキの方が多い。成形駒では、植菌密度4,000個/m³で6,000個/m³と同程度の発生量である（図2）。
4. 2年目までのシイタケ総発生量からみると、成形駒ではアベマキはコナラ以上の発生量があり、特にM290が良好である（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- ・植菌後2年目までの発生傾向であり、5年間のデータで再度検討を要する。
- ・この調査データは、対馬市峰町志多賀の水田跡地のスギ人工林を整備し寒冷紗で周囲を囲ったほだ場で得たものである。
- ・発生期間の気温により発生傾向が変化する可能性がある。

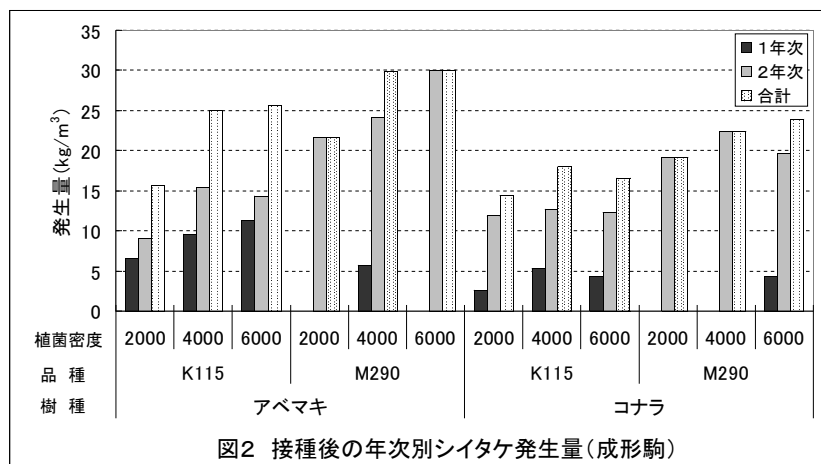
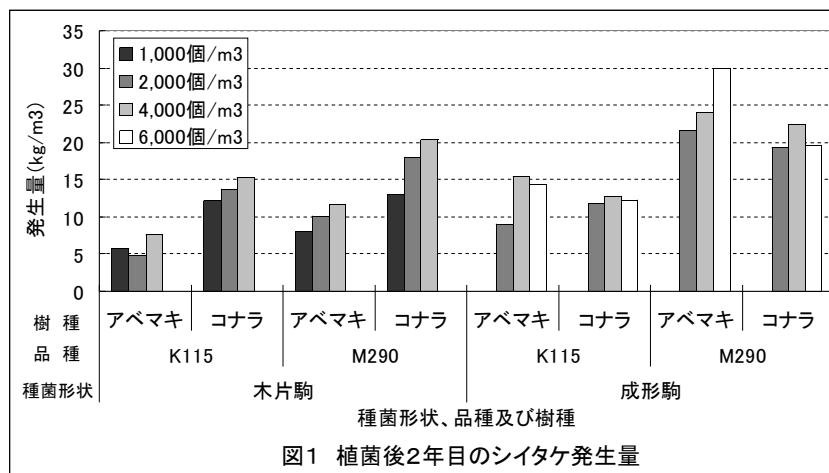
[具体的データ]

表1 原木の伐採、玉切り、植菌及び本伏せ時期

事項	時期	備考
原木の伐採	2004年11月15日	対馬では標準的な時期
玉切り(葉枯らし期間)	2005年2月15日	同上(3ヶ月間)
植菌	2005年3月20～23日	対馬市峰町
本伏せ(伏せ込み方法)	2005年6月20日	対馬市峰町(合掌伏せ)

表2 供試菌及び植菌密度

供試菌		菌興115(K115)、森290(M290)		
植菌密度	木片駒	1,000	2,000	4,000
(個/m ³)	成形駒	2,000	4,000	6,000



[その他]

研究課題名：対馬しいたけのブランド確立のためのアベマキによる栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2005～2009年度

研究担当者：久林高市